

会報

1973

4月

(第5号)

財団 京都市文化観光資源保護財団
法人

京都市左京区岡崎最勝寺町

京都会館内

(電)京都 (075) 761-0020



藤森駆馬

藤森駆馬

藤森駆馬は藤森神社の例祭として、毎年5月5日に行なわれる藤森祭の神事の一として伝えられているものである。

社伝によると、古く天応元年(七八一)に起源をもち、室町時代以降は武官により行なわれていたこの駆馬が明治の初め頃からは、氏子に引きつがれて現在に至っている。

その特色は、馬上における身のこなし方があり、敵の矢にあたつて落馬したり見せかける「藤下り」をはじめ、「一字かき」「手綱潜り」「立乗り」「さか乗り」「見返し」「さか立ち」などの曲乗りが演じられることがある。

現在、この駆馬は、当日の午前十時、午後一時、午後三時の三回、本社の正面鳥居から拝殿前までの約二百米の参道で行なわれ、非常に壯大な行事として、一般に知られている。

△京の年中行事▽

四月8

やすらい祭(踊り、午後一時頃から)
西賀茂大神宮社
今宮神社
玄武神社

10

やすらい祭(午前十時頃)
上賀茂神社
神泉苑

五月1~4

壬生狂言(午後一時)
壬生寺
神泉苑祭(狂言、午後一時半~六時)

21~29

壬生狂言(午後一時)
壬生寺
上賀茂神社
神泉苑

5

賀茂競馬(午後二時)
上賀茂神社

5

藤森祭(駆馬神事、午前十時、午後一時、午後一時、三時)
藤森神社

15

葵祭(午前十時半出発)
京都御所

15

やすらい祭(午前十時頃)
上賀茂神社

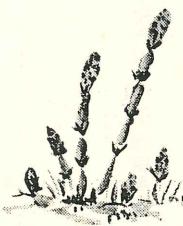
六月1~2

薪能(午後五時)

20

竹伐り会(午後二時)
平安神宮

鞍馬寺



第七回役員会開催

二月二十七日(火)午前十一時より都ホテルにおいて京都市文化観光資源保護財団第七回理事会、評議員会が開催され、船橋会長(京都市長)佐伯理事長はじめ、四十二名の役員が出席し、財團活動の中心である昭和四十七年度文化観光資源保護事業に対する補助金交付をはじめ、昭和四十八年度事業計画、収支予算、役員の選任等について審議された。

一、募金状況について

畑専務理事から、二月二十日現在、九億三〇〇万円余りの寄附申出があり、そのうち七億六、七〇〇万円余りを受納しており、一〇〇万円以上の大口協力者は五一件、八億三、一五五万円となり、前年同期と比較すると、申出額で二億三、八〇〇万円、受納額で一億七、六〇〇万円の増加となつた旨の説明があり、成に努力することを申し合せた。

二、昭和四十八年度事業計画及び収支予算について

昭和四十八年度は、京都市からの事務局運営費補助金が前年度より一〇〇万円増加の一、三〇〇万円となり、保護事業費が果実収入の増大により四、五〇〇万円から五、四〇〇万円に増加しているのが、前年度予算と異なる主な点である。

(1) 昭和四十八年度事業計画

(2) 募金活動の推進



靈山顕彰会のその後

顧問 松下幸之助

明治維新的志士の靈が祀られている靈山一帯を整備復旧しようという呼びかけのもとに、各府県から多くの有志が集まつて靈山顕彰会が発足したのは、ちょうど明治百年にあたる昭和四十三年の七月二十九日であった。

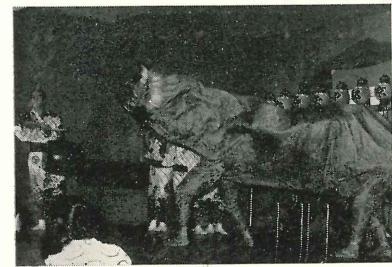
顕彰会は、まず、荒廃していた靈山の整備工事に着手し、明治史蹟公園「維新の道」の完成を見た。ところが、この整備事業を進めていくうちに、「墓の修繕だけではなく、志士の人たちの遺品を集めて展示する歴史館もつくろう」という気運が盛り上がりってきた。そして昭和四十五年には昭和四十八年度内には募金目標額達成に努力することを申し合せた。

昭和四十八年度は、京都市からの事務局運営費補助金が前年度より一〇〇万円増加の一、三〇〇万円となり、保護事業費が果実収入の増大により四、五〇〇万円から五、四〇〇万円に増加しているのが、前年度予算と異なる主な点である。この間には、幸いにも、会を支持される会員も全国に六、七万人を数え、また三億数千万円にもものぼる寄付金も財界はじめ各方面からお寄せいただいた。

そして歴史館が完成すると、意外なほどたくさんの展示品が集まつた。「維新の道」の完成を見た。ところが、この整備事業を進めていくうちに、「墓の修繕だけではなく、志士の人たちの遺品を集めて展示する歴史館もつくろう」という気運が盛り上がりってきた。そして昭和四十五年には昭和四十八年度内には募金目標額達成に努力することを申し合せた。

顕彰会は、まず、荒廃していた靈山の整備工事に着手し、明治史蹟公園「維新の道」の完成を見た。ところが、この整備事業を進めていくうちに、「墓の修繕だけではなく、志士の人たちの遺品を集めて展示する歴史館もつくろう」という気運が盛り上がりってきた。そして昭和四十五年には昭和四十八年度内には募金目標額達成に努力することを申し合せた。

(松下電器産業会長)



昭和四十七年度保護財団の補助金決る!

四大行事など百三件に総額三千八百十一万円

第七回役員会において、昭和四十一年度文化観光資源保護費補助金交付を決定した。
昭和四十七年度は前年度よりも補助対象となる件数が十六件、補助金が約三千三百万円(五十二%)増加して、三千八百十一万円となり、伝統行事・芸能では、鳥相撲・玄武・川上・上賀茂のやすらぎ踊・修学院・上賀茂の紅葉音頭、計六件が新たに補助対象となつた。

補助金交付先是次の通り

一、四大行事の保存執行に対する

葵祭行列協賛会(葵祭行列)、祇園祭協賛会(祇園祭山鉢巡行)、祇園祭山鉢連合会(山鉢修理)、

大文字五山送り火協賛会(大文字五山送り火点火執行)、大文字五山大文字・松ヶ崎妙法・船形万灯籠・左大文字・鳥居形松明保存会(施設整備)、時代祭協賛会(時代祭行列)

二、補助金一〇〇件

補助金一七、六〇五千元

補助金一〇〇件

補助金一七、六〇五千元

